

北海道大学教職課程自己点検・評価報告書（令和 7 年度）

令和 8 年 3 月

教職課程専門委員会 点検・評価小委員会

1. 教職科目シラバスの相互点検

はじめての試みとして、教職科目シラバスの相互点検を実施した。目的は、シラバスを利用する学生の観点から、シラバスの記載内容が適正であるか、授業目標や、成績評価基準等が具体的かつ明確に記述されているかなどを点検し、品質の向上を図ることである。

対象科目は、令和 7 年度 1 学期に開講した教職科目のうち 33 科目である。各科目とも 2 名の教員（シラバス入力担当・世話教員）がシラバスを読み、コメントし合うこととした（匿名相互査読方式）。実施時期は、2025（令和 7）年 12 月～2026（令和 8）年 1 月。回答は Google Form を用いて集計した。なお、実施に際して、理学部が令和 5 年に作成した「シラバス作成チェックリスト」を共有した。

回答数は 53 件であった。集計・分析の結果、教職科目のシラバスの基本構造は高水準で整備されていること、教員間で記述様式の理解は共有されていること、到達目標と成績評価の関係の明示等が今後の重点課題であることが確認された。自由記述コメントは、単なる形式チェックではなく、教育設計の質向上を志向した建設的対話になっていた。全体として、相互点検は建設的雰囲気で行われた。

以上により、教職科目シラバスは形式的整備段階から「改善プロセス」に入りつつあると見ることができる。2028（令和 8）年度は、残りの科目についても、シラバスの相互点検を実施していく予定である。

2. 教職科目受講者アンケートの実施と分析

2025（令和 7）年度は、「教科及び教科の指導法に関する科目」、および「教育の基礎的理解に関する科目」について受講者アンケートを実施し、分析を行った。

① 教科及び教科の指導法に関する科目

4 科目（「教科教育法（社会・地理歴史Ⅰ）」、「教科教育法（社会・地理歴史Ⅱ）」、「教科教育法（社会・公民Ⅰ）」、「教科教育法（社会・公民Ⅱ）」）を対象として受講者アンケートを実施した。実施時期は、1 学期の科目は 7 月、2 学期の科目は 1 月であった。

受講者に占めるアンケート回答者の割合は科目間で大きく異なった。一定の回答数が得られた科目では、受講生の評価や反応はおおむね良好であった。授業自体の満足度やそこから得られる知識や視点（見方・考え方）は、社会科（地理歴史・公民）教員としての資質や能力を高めるための意識や動機付け、教職課程を修める上で必要な内容や要素を十分に扱っているものと思われる。ここで培った知識や経験を整理・融合し、教育実習に備える繋ぎの部

分に対するフォローを手厚くする機会を充実させることが今後の課題となりうる。一方、アンケートの回答数が非常に少ない科目もあった。事前に担当教員と実施の時期や方法について確認する必要がある。

② 教育の基礎的理解に関する科目

4科目（「教職入門」、「教育心理学」、「教育制度論」、「特別な教育的ニーズへの理解と対応」）を対象として受講者アンケートを実施した。実施時期は、1学期の科目は7月、2学期の科目は1月であった。

受講者に占めるアンケート回答者の割合は科目間で大きく異なった。また、アンケートを実施したものの、回答結果を分析することができなかった科目もある。アンケートの実施から分析までの一連の体制を整備することが課題である。同じ科目を分担している教員、異なる科目の担当教員の間でアンケート結果を共有し、教職科目、ならびに教職課程全体の課題を検討する機会を設ける必要があるだろう。また、アンケートの設問「教職課程の履修全般の要望」も、教職課程の改善の方向を探る手がかりとしていくべきだろう。

3. 教職課程担当教員会議の実施

2026（令和8）年2月24日に教職課程担当教員会議を開催した。参加者数は15名（うち非常勤講師は5名）であった。ここで、教職課程委員会 点検・評価小委員会から、教職科目シラバスの相互点検、教職科目の履修者アンケートの結果報告と質疑応答を行った。また、参加者による教職科目に関する情報共有と意見交換を行った。